

第三者評価 評価結果総括表

ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

事業所名	社会福祉法人 聖徳会 神ノ木保育園
報告書作成日	平成 29 年 4 月 27 日 (評価に要した期間 10 か月)
評価機関	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

評価方法

自己評価方法 実施期間：平成 28 年 7 月 13 日 ～平成 28 年 12 月 15 日	全職員が自己評価を行ない、各クラスで話し合い、さらに全体ミーティングで話しあった結果を園長・主任・副主任が合議の上、まとめました。
評価調査員による評価方法 実施日：第 1 日目平成 29 年 2 月 13 日 実施日：第 2 日目平成 29 年 2 月 17 日	評価調査員が 2 日間園を訪問し、現場観察、書類確認、園長、職員 2 名に面接ヒアリングし、および子どもの観察を行いました。
利用者家族アンケート実施方法 実施期間：平成 28 年 12 月 14 日 ～平成 29 年 1 月 12 日	全園児の保護者に、アンケート用紙と返信用封筒を園から渡して、園に回収箱を備え、無記名・密封の状態で評価機関が回収しました。
利用者本人調査方法 (実施日：平成 29 年 2 月 13 日、17 日)	園児の 1 日の流れに沿っての保育園での生活状況を、観察を中心に行いました。また、園児と遊びや食事をともにしながら、会話の中から聞き取りました。

評価結果についての講評

【施設の特色】

・立地および施設の概要

神ノ木保育園は、昭和 25 年 4 月 1 日に開園し 67 年目を迎える社会福祉法人聖徳会が運営する保育園です。0 歳児から就学前児童を対象とし、定員は 204 名で、現在 201 名が在籍している大規模園です。園は、JR 横浜線大口駅から徒歩 10 分ほどの見晴らしの良い高台の閑静な住宅地にあります。運営主体の社会福祉法人聖徳会は、神ノ木保育園のほか、横浜市内に 4 保育園、埼玉県日高市に 1 園の計 6 保育園を運営しています。

・園の特徴

園庭、砂場、屋上広場、どろんこ遊びができる園庭（通称どろどろランド）での活動のほか、園近隣には散歩や園外活動に適した公園が多くあるほか、小中学校、交番、消防署、商業施設などもあり、地域社会とのつながりを持ちながら戸外活動に取り組んでいます。園伝統の「みつ馬」（3

本の木を三角形に組んだバランス感覚を養う遊具)は5歳児クラスになると本格的に取り組み、運動会で成果を披露しています。また、丈夫な体つくりのため、室内は冬季(幼児のみ)を除き、裸足で過ごしています。

【特に優れていると思われる点】

1. 遊びを大切にされた保育

戸外での遊びを大切にしていることを、保護者に伝え、重要事項説明書に明記して、実践しています。園庭、砂場、屋上広場、どろんこ遊びができる第二園庭での活動のほか、園近隣には散歩や園外活動に適した公園が多くあり、日々変化に富んだ戸外遊びができる環境の中で子どもたちは遊んでいます。職員は子どもからほどよく離れ、遊びの妨げにならないようにしながらも、すぐ対応できるようにしています。各クラスの週案の活動欄は、「園庭遊び」「屋上で遊ぶ」「散歩(神ノ木公園)」などの戸外活動を中心に作成されています。

園舎内の遊びの環境作りとして、保育室だけでなく、玄関ホール、廊下の一角、屋上に出るための踊り場におもちゃや絵本を置き、遊びのコーナーとして活用しています。0歳児クラス(20名)、1歳児クラス(24名)を3グループ、2歳児クラス(26名)を2グループに分けて活動をしているため、保育室以外のこれらの空間を活かし、子どもたちが小集団で好きな遊びができるようにしています。

2. 子どもと地域との日常的な交流

地域交流計画に基づき、神ノ木公園管理事務所の協力を得た年長児のチュウリップの球根植えなどの活動、他の保育園児、小学生、中学生、高校生との交流、消防車に乗る体験、園庭開放や園行事に参加した地域の親子との交流保育など、地域を知る活動・経験を取り入れています。日常的な園外活動時にも、子どもたちは顔なじみの人々と挨拶をしたり、遊んできたことの報告をしたりと自然な関係を築いています。体験学習で訪れた中学生のプレゼントの手作りおもちゃは子どもたちのお気に入りです。5歳児クラスは、小学校訪問で見つけた手作りの暖簾を自分たちも作りたいと希望を出したことから製作に取り入れ、完成した作品は保育室出入口に飾っているなど、地域の人々との交流を通して子どもたちは成長しています。

3. 安定した保育を提供するための職員の取り組み

園長のリーダーシップの下、職員の連携が図られ、一人一人のモチベーションの高さもあり、常に子どもを中心とした保育の提供に努めています。クラスミーティング、全体ミーティングなど目的に応じた各種の会議を定期的開催し、職員間の情報共有、保育の確認に努めています。各クラスごとに「授乳と離乳食」や「歌遊び」などの年間テーマを決め、定期的に学習会を行い、全体ミーティングで発表する機会があります。そのほか、経験の浅い職員を対象とした「すくすく会議」は、ベテランの職員が講師となり、学び合う場としています。(異年齢)交流保育、食育の実践報告もスキルアップに活かされています。

【特に改善や工夫などを期待したい点】

1. 保護者との個別の情報交換の工夫

園の基本方針の理解度の向上、クラスだよりの工夫、お散歩マップの展示など、保護者全体への情報提供の丁寧な取り組みが伺えます。しかし、第三者評価の保護者アンケートでは、送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換についての設問に「どちらかといえば不満」22%、「不満」9%との結果が出ています。日々のやりとりのほか、希望者だけでなく園として個別面談の機会の設

定なども含め、個々の保護者との連絡・連携体制を強化し、保護者のさらなる理解が得られるような働きかけが期待されます。

2. 外部からの侵入に対する対応策

第三者評価の保護者アンケートでは、「外部からの不審者侵入を防ぐ対策」について、約 30%の保護者が否定的な回答をしています。登降園時のオートロック式の門扉の閉め忘れについては、保護者に向けても、掲示でお願いをしていますが、徹底できていません。今後の検討、対応が期待されます。